

2000年7月20日 No. 50

全国一般労働組合全国協議会

編集発行人 遠藤一郎

東京都港区新橋5-17-7 小林ビル

TEL 03-3434-1236

FAX 03-3433-0334

# 全国一般全国協

## 第10回大会を中小労組の大結集へ 向けた大きな飛躍の場としよう!

全国一般全国協中央執行委員会

八月二十六、二十七日の両日にかけて第十回定期大会を東京で開催する。

第十回大会は全国協にとって記念すべき大会である。労戦統一が進む中で私達はあえて連合、全労連を選択することをせず全国協議会を結成して全労協に結集した。

この十年、労働運動は大きく様変わりした。高度経済成長は破綻し、バブルがはじけて長期不況が日本経済を覆っている。企業倒産は依然として続き、失業者があふれている。こうしたなかで労働組合の組織率は低下を続け現在22・4%に過ぎない。そして春闘は労働者の生活を防衛し、国民の生活向上に資するという任務を果たすことができず、ストライキも激減した。二〇〇〇春闘はもはや労働者の団結と闘いによって生活を守るためという春闘とはいえない状況になっている。反戦平和闘争への労組・労働者の参加も少ない。労働組合の旗が反戦闘争の先頭に常に翻る光景も少なくなった。

労働組合離れが言われて

既に久しくなった。もはや労働組合の存在価値はないのであろうか。私達は大会議論を通して十年を総括し、私達の闘いと組織と方向性を点検し、二十一世紀へ向けた答えを見つけださなくてはならない。

私達全国協はあくまでも現場労働者の利益に立脚した闘いを追求してきた。そして大手企業組合によって見捨てられ、切り捨てられてきた中小企業に働く労働者の生活を守り権利を防衛するための中央センターとして飛躍するために奮闘してきた。争議を地道に闘い勝利してきた。規制緩和攻撃の下で労働法制の改悪攻撃、産業再編、社会福祉政策の後退に全国運動を提起し多くの仲間と共に闘ってきた。九十九年には多くの中小労働運動を担ってきた仲間と共に中小労組政策ネットワークを結成して中小労働者全体の要求を政府・資本に認めさせる運動に取り組んできた。

しかし、私達の力は未だ小さく、労働者の声を政府・資本に十分反映させることができずにいる。政府統計

では中小労働者が労働者全体における割合は80%を越えている。またこの間労働力流動化政策の進展によって非正規雇用労働者は22%に達し、今後更に拡大することが明らかである。これらの労働者は私達の仲間であり、団結の対象である。そして彼らが一つになって声を上げるとき政府・資本も無視できないのは明らかである。

入ることができる労組を全国で作り上げること、そして一人のために常に全力で闘いを組織することが重要であり、全国をつなげて闘いと組織を作ることである。そして国内のみの闘いではなく国際連帯・共同行動を実際の積み上げ、多国籍企業による野放しの労働者搾取に歯止めをかけるなければならない。

全国協十年は今後の百年の一里塚にすぎない。この一里塚をしっかりと基礎付け、更に大きく発展させることを確認しよう。



7/1 労働者サミットin沖縄2000

# 秋から二〇〇一年春闘に向け中小労組政策ネットワークの飛躍を勝ち取るう!

中小労組政策ネットワーク(中小ネット)は、結成から半年間、全力で闘いを進めてきた。持株会社による大型合併の効率を保證することをねらい、部門ごとの分割、統合を容易にする会社分割法が先の国会に上程された。一連のリストラ促進の会社法制改悪の仕上げとして準備された。産業再生法、民事再生法の審議の過程で問題にされた、企業組織変更に伴う労働者保護に関して、会社分割の時点に限定した労働契約承継法が同時に審議された。また、失業者の急激な増大に伴い、財政破綻を予測される雇用保険法の改悪(保険料の引き上げと失業給付の大幅引き下げを主内容とする)が提案された。

二〇〇〇年春の全国キャラバンを通じた大量宣伝、各県労働局への申し入れなど取り組んだ。特に、雇用保険法改悪問題では衆議院労働委員会でも中岡委員長が、会社分割法では参議院社会労働委員会でも全日建小谷野書記次長が、中小ネットを代表し参考人として意見陳述を行った。

圧倒的国会内での保守多数支配により、法成立を阻止することはできなかったが、中小労働者の要求を国会の場で直接訴えることができたことは、今後に生かせる成果として評価できる。

前号で報告された二〇〇〇年春の全国キャラバンの成功と合わせ、中小ネットは結成の積極的意義を半年間の闘いで示した。

この半年間を総括し、七月二十九日には裾野研修センターで総括合宿を行い、秋から二〇〇一年春闘に向けた取り組みを決定する。リストラの嵐が引き続く中、

今こそ中小労働者、下請け労働者、非正規雇用労働者、失業労働者の要求を鮮明に打ち出し、共同戦線を強化

発展させる必要がある。全国協は全力で中小ネットを強化発展させるために、先頭になって闘う。

## 勝利者なき衆議院選挙! 平和・公正・民主・社会保障に立脚する政治潮流を!

二十世紀最後の総選挙は、勝利者なき結果といわれ政治の閉塞状況、行き詰まりがますます明らかになった。自民党は三十八議席減の大敗北、連立を組む公明、保守両党ともに議席を減らしながらも、自公保二党は、安定多数と言われる二百六十五議席を上回り二百七十一議席、権力構造の転換はなかった。後述する一部民主党他の市場万能主義、改憲指向をみれば、ガイドライン法、盗聴法、日の丸君が代法、労働法制改編など戦後の支配構造を根本的に転換させてきた政治構造は変わらない結果となった。

争点となるべき「景気・財政改革・社会保障・安全保障」など21世紀に向けた政策論議は、相変わらず根柢なきイメージ論争に明け暮れ、自公保連立政権をつ

き崩すに至らなかった。投票率が3%上昇したとはいえ、組織的不在者投票がおこなわれたり投票時間延長などの事実を考慮すれば、高い投票率といえず、国民の政治選択がはっきり舵を切ったとはいえない。やはり先回の総選挙後の自社連立以降自公保政権に至る国民の審判なき権力ゲームは政治的虚無感を国民の間に植付けていると言える。

支配政党・自民党の投票率は減少し、かろうじて小選挙区制の妙手で議席を確保しており、投票率はすでに過半数を大きく下回り、選挙区41%、比例区28.3%にすぎない。さらに小選挙区へのなりふり構わないバラマキ政治は、公明党も巻き込み個別利害の対立を顕在化させており、とりわけ疲弊する地方と競争激化

に苛立つ都市の対立・格差を広げた。従来、産業再編成のために包括的に利益誘導してきた自民党政治は、国家予算の予備費まで繰り出す地方土建産業など個別利益誘導に自らを落とし込めた。

その結果、社会の軋みはこれまでになく大きくなったといえよう。躍進という民主党の議員構成も労働組合選出の議員が減り、むしろ極端な市場原理・競争主義礼賛の議員が増えている。自民党の実力者議員の相次ぐ落選も旧来の利益誘導が機能しない証左である。

この社会的軋みはまた、一方で「権力的突撃」を準備するかも知れない。石原都知事の「三軍統合演習」「三國人」発言、森首相の「神の国」発言など旧来の利益誘導型と決別した右か

らの新たな政治再編の可能性も高いと言えよう。

一方、社民党も事前に言われた壊滅の結果を免れ若干の議席増となった。「頑固に護憲」というのはっきりした政治理念の有効性のみ頼っていたとはいえず、まだ民衆の中に新自由主義に対抗する要素が強いことを表わした。

地方・都市部、貧・富の拡大など対立と矛盾を拡大しながら、不安定な政治構造は継続していく。来夏の参院選までの間に政治的変動は避けられないと言える。拡大する都市低所得者層、疲弊する地方産業従事者・農漁民などの苛立ちと不安を、明確な民衆的価値観(平和・社会的公正・民主・社会保障などに立脚する政治潮流へ組織する努力が問われている。

### 全国一般全国協第十回大会

▽日時 八月二十六日(土) 十二時~  
二十七日(日) 十二時

▽場所 東京弥生会館(上野)

※十回大会記念レセプションを二十六日(土) 十八時三十分より開催。

### 6・30 労働者サミット大阪集会の報告 ゼネラルユニオン

米政府主導の「規制緩和」  
 新自由主義に基づくグローバリゼーションと対決する為には我々の「労働者サミット」は開催された。全労協が招請した本格的国際会議は初めての経験であるが、韓国民主労総・香港工盟・フィリピンKMU・台湾全国産業総工会が駆けつけてくれた。これら東アジアのまともなナショナルセンターが、高雄市以来、日本で再会できた意義は大きい。特に、台湾代表は、この五月一日に、国民党の御用労組を打ち破って結成された民主ナショナルセンターである。六月三十日大阪で最初の国際会議がもたれ、夜は歓迎国際連帯集會に臨んだ。

各国とも民営化と労働法改正が焦点となっており、多国籍企業の暴力的争議演しや、派遣法の悪用等の熱心な問題提起が続いた。共同声明案は、全労協本部（藤崎・中岡氏）から提案され、各国の現場闘争を担っている代表から、多数の意見が出され、沖縄での集約に引き継ぐことになった。関西では、数波にわたって規制緩和反対の大集會を重ね、全国キャラバンとしても展開してきた経験が大きく物を言った。ゼネラルユニオンは通訳・翻訳で協力し、そして全日建連帯近畿や全港灣大坂も全力投球で集會参加と裏方で奮闘した。

### 7・1~3 労働者サミット開催、国際連帯深まる！

七月一日から三日間、「労働者サミットin沖縄二千」と基地視察・住民との交流・沖縄集會が開催された。海外からは韓国民主労総、香港工盟、台湾全国産業総工会、フィリピンKM

Uが参加、沖縄本土からは全労協、三十以上の労働組合代表一百名近くが参加した。全国協も八名が参加した。會議では、「各国で新自由主義のもと国営企業の民営化、規制緩和・法改

悪、非正規労働者の増大、貧富の拡大が現れ、組合潰しや労組組織率の減少がある事」が確認された。また、沖縄基地の実態や、韓国の米軍射撃場撤去の闘い、フィリピンの米軍再駐留協定の闘いが報告された。各国からは日本軍国主義復活に対する批判も表明された。最後に共同声明では、「各国の運動・組織の結びつきを強め、一企業、一国家の枠組みに留まることなく、国際連帯で規制緩和と闘い、基地撤去の闘いに取り組み」が確認されたのである。また名護「命を守る会」と

の交流も行い、沖縄集會には百五十名の労働者が集った。集會では、沖縄の新崎氏が「安保の要として沖縄を打ち出すサミットに反対して七月二十日嘉手納基地包囲闘争を行う」事を表明した。KMUも同日、米大使館、日本大使館に抗議行動を行う事を表明した。嘉手納基地包囲闘争やジュビリー二千労働分科会、AWC実行委員会の沖縄サミット反対一名護市街デモには、全国協から十二名以上、中小労組政策ネットから十名近い代表が派遣される。

### 7・18 重債務帳消し求めフラワーマーチング 福岡ゼネラルユニオン

「サミット・G8に対抗するin福岡」は、二月から準備に入り、五月・六月・七月と連続した取り組みを行ってきた。参加して驚いたのは、メンバーが非常に若い、女性が多い、殆どのメンバーが英語が話せる、インターネットを活用した情報量の多さでした。七月五日・七日には福岡NGOフォーラムとの共同企画として、カナダとマレーシア

からゲストを招き、「シアトルでは何が起こったのか」WTOについて知るべきこと」をテーマに、講演会を行いました。世界の貧困や失業、社会不安も、病気の蔓延もこのグローバリゼーションの結果として引きおこされ、また、アメリカやヨーロッパ、日本の雇用不安や失業者の増加もこのグローバリゼーションの一つの側面に過ぎないことを知

りました。そして、七月八日には、極貧国の重債務取り消しを求め、福岡で開催された蔵相會議G8に対してメッセージを届けようと「フラワーマーチング」を行いました。百五十名の市民や労働者が集まり、まるで戒厳令のような福岡市内を進行。蔵相會議への窓口として大蔵省へ直接メッセージを届けました。これからも足元の闘いを強化し、世界の労働者や市民、NGOと協力しながら、グローバリゼーションと対抗する新しい労働運動を創造していこうと思えます。

### 争議解決！企業内労組から地域労組へ エルナーいわき労働組合

エルナーは、組合との事前協議のないまま昨年末に大リストラ策を発表し、生産子会社であるエルナーいわきの企業閉鎖と全員解雇を言い渡しました。エルナー労組本部は、エルナーいわきの組合員の合意なしに、労使関係のないエルナーいわきと「希望退職」に関する労使協定を締結し、エルナーいわきの組合員を切り捨てました。会社側は「希望退職」の募集を強行し、応じなかった五十人の組合員に対し、四月二十八日付けで解雇するという暴挙を行いました。エルナーいわきの組合員は全国一般全国協に加盟し、背景資本の責任を追及する行動とともに、

交渉拒否で不当労働行為の救済申し立てを行い、解雇無効・地位確保の提訴を行い、更には、自分たちの職場を勝手に処分させないために職場確保の監視闘争と、五月一日のメーデー以降解雇を認めない連日の就労闘争を行いました。六月十七日に会社側と和解が成立し、工場の存続はなりませんでしたが、雇用対策資金を会社側から獲得することができました。自分たちで仕事を探し、相互に斡旋し、雇用を創り出すような決意を固めているところです。私達の闘いは、始まったばかりです。今後とも皆さんのご支援をお願いします。

# 五月二十日金属一般全国 交流会の報告

## 中金労組

五月二十日金属一般の全国交流会が開催された。この交流会の目的は、金属一般が全国協の戦列に参加し、「当たり前」の労働運動を追求し、新たに二組合を金属一般に迎え入れて以降、今後の運動課題を明確にする事であった。会議には、地元栃木の不二工機労組、群馬の昭和電気鋳鋼労組、大坂の昭和起重機労組、京都の合同支部、中金労組に加えて由倉工業労組、ジーエス製作所労組の新組合、及び全国協の遠藤書記長・山原副委員長が参加した。そして、山原副委員長から金属一般の歴史及び、全国協結成後の運動経過が報告され、参加各労組の職場、地域での運動、組織の現状も報告された。再建争議中の昭和起重機からは、「和議」が認可された後、受注が少なく労働組合の存在意義が問われる厳しい状況が続いている事、また由倉・ジーエスの二労組からは、中労委闘争及び工場閉鎖全員解雇と闘う中で、全国協への結集の必要性が報告された。遠藤書記長は、静岡の安倍川製紙労組の全国協への結集や電機連合傘下の労組の工場閉鎖攻撃に対する闘いと全国協の係わりを報告し、全国協の運動の必要性と今後の組織化展望を語り会議のまとめとした。尚、会議終了後、関西各労組メンバーは、不二工機前委員長が脳梗塞で倒れ療養中であるのを見舞い、良好な回復状況を喜び、一日も早く職場復帰される事を祈念した。

### 闘争の新しい報告

## 運賃ダンピングと闘うトラック労働者達!

### 北九州合同労組

ユニオン北九州では、直島さんというコンテナ輸送トレーラーの運転手が、昨年

闘いが始まりました。日本運輸という会社では、失明の恐れがあるこの労災事故をもみ消そうとする会社側との間に、激しい闘いと労働基準監督署交渉を重ね、労災認定を勝ち取りました。この会社はそればかりではなく社会保険からの脱退をし、また歩合賃金の引き下げを行っていました。このような労働条件悪化に耐えかねていた職場の労働者たちは、労災闘争の行方注目しながら、十一月に分会を結成し、社会保険復帰・不公平配車の是正・歩合制賃金撤廃を掲げて頑張っています。日本運輸の闘いの開始は、直ぐさま明和運輸という会社に波及しました。九十八年に組合を結成したものの、不当労働行為になす術を持たない上部の労働者への説教ばかりの「指導」の結果、組合切り崩しと差別扱いで追い詰められていた明和運輸の労働者は、最後の選択として、昨年十二月に上部組織を変え、決意を新たに闘いを始めました。北九州合同としての緒戦の年末一時金闘争では、遂に「事故減額制度」(事

故をしたらボーナスがゼロになる)を撤廃させるという大成果を勝ち取りました。「真剣に闘えば勝てる」という確信も同時に勝ち取りました。四月十五日には初めて「構内集会デモ」を行い、不転の決意で争議を闘っています。今、トラック労働者は、規制緩和と運賃ダンピングの結果、悲惨な状態にあります。北九州合同は、これからもトラックでの闘いを拡大強化していきます。

## 稿 勝利への展望を切り開くぞ

### 寄 国労闘争団

国鉄の分割・民営化から十四年、清算事業団からの二度目の解雇を受け十年、私たちが闘争団と家族は、政府に不当労働行為の責任をとらせ、地元JRに復帰させる為に闘ってきました。あきらめず、くじけず、一つ一つの闘いを積み重ねてきたことにより、地方労働委員会の救済命令、早期解決を求める自治体決議、更に昨年十一月に出されたILO中間勧告など大きな成果を勝ち取ってきました。ところが、五月三十日、こうした闘いを否定するかのような解決案が与党三党、社民党の合意により出されました。その内容は「人道的な立場から解決を図る」「JRに法的責任がないことを認めよ」というもので、国労の全面屈伏、闘争団の切り捨てを迫っています。また、このことは、行革規制緩和攻撃を受けながらも必死に闘っている全国の

仲間との間に、「闘ってきたよ、勝利への展望を切り開いていく事につながる」と考えています。これからの全国の仲間とともに、「闘ってきたよ、勝利への展望を切り開いていく事につながる」と喜び合える解決を実現させるために頑張っていきます。



7/2 労働者サミット沖縄集会